

財団法人 8020 推進財団

平成 19 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名 : 在宅訪問歯科診療における口腔機能スクリーニング検査の普及

2. 申請者名 : (社) 仙台歯科医師会 代表者 阿部洋一郎

3. 実施組織 : (社) 仙台歯科医師会

4. 事業の概要 :

(社) 仙台歯科医師会が行う在宅訪問歯科診療に際し患者の口腔機能検査を一般化し、その情報を患者、術者、関係者等と共有することにより、チームアプローチによる安全な診療体制の確立と市民(患者・家族等)の口腔機能向上への意識を高めることを目的とし(1)口腔機能スクリーニング検査モデル事業 (2)口腔機能スクリーニング検査普及活動、を実施した。

5. 事業の内容 :

前年度までに宮城県医師会、耳鼻科医会、宮城県歯科衛生士会、言語聴覚士育成医療専門学校等との協力関係を構築し、それを発展させる形で以下平成 19 年度の事業を実施した。

(1) 口腔機能スクリーニング検査モデル事業の実施

口腔機能スクリーニング検査のためのプロトコールならびに口腔機能に関する質問票を作成し、検査協力医や検査協力歯科衛生士に向けて検査方法の統一化のための講習会を実施。訪問歯科診療の依頼のあった患者を対象としてスクリーニング検査をモデル事業として実施し、その結果を分析、検討し、学会でも報告した。

(2) 口腔機能スクリーニング検査普及活動の実施

モデル事業をふまえ、検査の普及方法を検討。在宅訪問歯科診療の協力医の中から新たに検査協力医を選出し、講習会を実施後、さらに広くスクリーニング検査を実施した。また、検査協力医ならびに協力歯科衛生士の知識、技術の研鑽と医師会、耳鼻科医会とのネットワーク強化を目的として講習会を実施。検査結果を総括し、学会への演題提出も行った。

6. 実施後の評価(今後の課題) :

従来の訪問歯科診療の現場では主訴への対応に追われ、口腔機能の問題は患者の訴えがあった場合にのみ個々に対応に当たる状況であったが、本事業を通じ、多くの在宅歯科診療を希望する患者に潜在的な口腔機能低下が認められる現状が明らかとなり、口腔機能の把握を事前に行い、より安全な歯科診療体制をとることの重要性が認識できた。また、本事業では、検査導入を検討する段階から関係職種との共同作業を行い、方針の妥当性を図りながら進めていったため、その後の関係構築がスムーズに行えた。さらに、スクリーニング検査を行い客観的な評価をする事は、関係職種と情報を共有し、それぞれの立場からの支援方法を模索するための指標として有意義なものであると認識している。今後この体制を基礎として、より質の高い訪問歯科診療の実施と口腔機能向上への取り組みを推進していきたい。